



所々にあるシイの黄色い花が目立つようになり林は若葉から青葉に変わってきました。頭上をツバメが飛び、ヒバリの高鳴きが繰り返して聞こえます。繁殖に備えたカワウが小枝を銜えて巣を構える島へ向かって飛んでいきました。この日は愛知池のほとりから百年の森のある丘を目指しました。歩いた距離は1kmほどで90分ほどの記録です。



スズカアザミの若葉

10月頃に迎える開花に備えて葉を広げています。多年草で林の脇で増えてきました。



ヨトウガの幼虫

コナラの樹皮のくぼみに頭を下にして身を寄せていました。こんなようすを見るのは初めてです。



ニゴイ

50センチ以上もあるコイが悠々と泳いでいるのを見ました。毎年同じ場所で見えています。ニゴイは普通のコイに比べると口の辺りが平たく見えます。



ハナイバナ

花がいくつものが連なって咲くキュウリグサが終わる頃咲き始めます。道端で見られました。



マツオオエダシャク

ソメイヨシノの北向きの樹皮にぴったりついていました。画像は見やすくしてありますが、見事に樹皮に擬態していました。幅は30ミリのほどで、幼虫は針葉樹も広葉樹も食べます。



サワフタギ満開

雑木林の花で、沢をふさぐように茂ることからの名前です。別名「ニシゴリ」は錦織の意で材の灰を紫染めの媒染剤に用いたことによります。青い実が成ります。



ヒメハナバチの一種

サワフタギの花に来ました。全身に細い毛が生えています。花粉や蜜を集め、地中に掘った穴の中の花粉団子に産卵します。巣穴を閉じないので乾いた地面を探すと穴が見られことがあります。



クロムネアオハバチ

黒と黄緑のツートーンカラーが目飛び込んできました。笹の茎を行ったり来たりしていました。ハバチの仲間はナイフのような産卵管を使って茎の内部に産卵します。



ニセアカシア

ほのかに甘い香りが周りに漂っていました。根粒菌と共生し痩せた土地でもよく育つので周回路上に植えられています。ミツバチの仲間が多く訪れます。



キムネクマバチ

背中に黄色い毛が生えている20ミリの在来種です。刺すことはまずない蜂です。近年になって外来の全身黒いタイワンタケクマバチが増えてきました。



ヤマモモ実

雄木と雌木があり、雄花の後に雌花が咲きますが花びらはなく棒状の花序に赤色の雌しべをいくつも付けます。



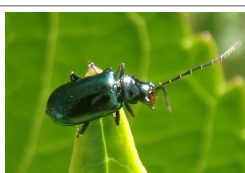
ニガナ

細い茎の先に5～6枚の花びらを付けます。中には8枚以上付けるものがありハナニガナと言われます。茎を傷つけると苦みのある乳液を出します。

ツマキチョウ(左おす・右めす)



前翅端尖る



クワハムシ

光沢が美しいハムシで、クワやエノキなどで見られます。

植物 タンポポ二種、ニガナ、マツバウンラン、ハナイバナ、ノミノツヅリ、ハコベ、イモカタバミ、ハルジオン、ヘラバヒメジョオン、ヒメコバンソウ、トウカイコモウセンゴケ、チガヤ、ニセアカシア、サワフタギ、ヤマフジ、ヒラドツツジ、アカマツ雌花、シイ、タブノキ葉を広げる、ヤマモモ実が膨らむ、アカマツ雌花伸びる、サルマメ伸びるオニグルミ伐採 **昆虫** ウスオエダシヤク、マツオオエダシヤク、ツマキチョウ雌、ヨトウガ幼虫、ヒメウラナミジャノメ、ナミアゲハ、キタキチョウ、ツチイナゴ、キリギリス幼虫、クワハムシ、アワフキの一種、イスノキ虫瘤(イスノキハタマフシ)、ヒメハナバチの一種、キムネクマバチ、クロムネアオハバチ、クロヤマアリ、**蜘蛛** ジョロウグモ卵のう、ゴミグモ、**鳥** ヒバリ声、コジュケイ声、ツバメ、ハシボソガラス、ヒヨドリ、シジュウカラ、カワラヒワ声、コゲラ声、カウ、**その他** ニゴイ、モグラ塚